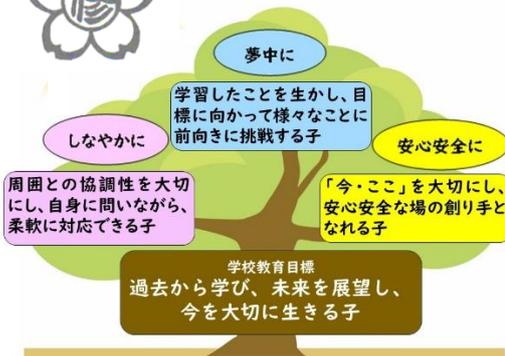




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和8年 3月24日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.45

「正解」のない時代に、最高の「問い」を ～ 一年間の感謝を込めて ～

校庭の桜のつぼみもふくらみ始め、別れと出会いの季節がやってまいりました。保護者の皆様には、この一年間、本校の教育活動に多大なるご理解と温かなご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今年度、私たちは「たくさんの夢と笑顔とありがとうが集まる学校」を目指し、歩みを進めてまいりました。その中で私が常に大切にしてきたのが、「答えを探すのではなく、問いを探す」ということです。予測困難なこれからの時代、誰かが用意した「正解」をなぞるだけでは、主体性は育ちません。「どうありたいか」と自らに問い続け、失敗を恐れずに挑戦する姿こそが、学校に「笑顔」と「夢」を運んでくれるのだと感じています。

その笑顔を支える基盤が、「しなやかに」「夢中に」「安心安全に」という本校の学校教育目標に掲げる3つのことです。変化を恐れず柔軟に受け入れる「しなやかな心」、自分の好きなことややりたいことに没頭する「夢中になる力」、そして誰もが自分らしくいられる「安心安全な心の居場所」です。今年度は、チーム担任制の導入や道徳研究発表など、新しい試みにも挑戦しました。これらはすべて、教職員が協働しながら、子どもたちが安心して「夢中」になれる環境を整えるための取り組みです。保護者の皆様が時に見守り、時に並走してくださったからこそ、子どもたちは笑顔で毎日を過ごすことができました。

先日、ある児童が「先生、いつもありがとう」と声をかけてくれました。そのたった一言で、周りにいた教職員も私もパッと笑顔になりました。「ありがとう」は、相手を認める魔法の言葉です。大人が子どもに、子どもが友だちに、そして学校が家庭や地域へと感謝の言葉が飛び交うとき、そこには確かな信頼関係が生まれ何かを成し遂げるための大きな原動力となります。

来年度も、この「ありがとう」の連鎖をさらに広げ、修学院小学校を京都で一番、日本で一番あたたかな場所にしていきたいと考えております。キーワードは地域も含めた「協働」です。「協働」を大切にしたい取り組みを、これからも力強く進めてまいります。

とりとめのない文章になってしまいました。最後になりますが、「正解」のない時代だからこそ、自らへの最高の「問い」を胸に、子どもたちが新しいステージで輝くことを心から願い、自身も進んでいきたいと思えます。保護者や地域の皆様、修学院小学校の教職員と共に歩めたこの一年間に、心からの感謝を込めて、本当にありがとうございました。

